

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1- : 学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われているか。

【観点到る状況】

本学の理念及び目的(前掲資料1-1--B)に沿って、中期目標において、基本的方針や目標を定めている(資料6-1--A)。これらを踏まえて、各学部・研究科等は、それぞれの特性に応じた教育研究上の目的(前掲資料1-1--C, 1-1--B)を明確に定めている。達成状況の検証・評価は、教育会議の下のFD部会及び教務委員会が連携して(前掲資料2-2--A)授業改善のためのアンケート(前掲資料3-2--D~G)及び卒業生・就職先企業等へのアンケート(後掲資料6-1--A~C)を実施し、その結果については、学内で公表している。また、学士課程は進級判定及び卒業判定等により、大学院課程は修士論文・博士論文審査及び修了判定により、それぞれ達成状況の検証・評価を行っている。さらに、授業改善の諸問題への対応等を教育方法改善ハンドブック(KU:T0)に掲載するなど達成状況を検証している(前掲資料3-2--1)。

資料6-1--A 基本的方針及び目標

(http://www.kumamoto-u.ac.jp/pageimages/daigakujuhou/daigakugaiyou/unei/mokuhyou_keikaku/img/h16mokuhyo.pdf)

大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育の成果に関する目標

- 1) 学士課程における教養教育においては、現代社会を生きる能力と学術への関心を培う。
- 2) 学士課程における専門教育においては、教養教育を踏まえ幅広い専門性を有し、その専門性によって社会に貢献できる質の高い人材を養成する。
- 3) 大学院(修士課程)においては、学士課程と有機的に連携し、高い専門性を有する高度専門職業人を養成する。
- 4) 大学院(博士課程)においては、創造性豊かな研究者及び高い専門性と豊かな学識を有する高度専門職業人を養成する。
- 5) 専門職大学院においては、社会的要請のある特定分野について、高度で専門的な職業能力を有する人材を養成する。
- 6) 教育を通して、高い職業意識を持ち主体的に職業を選択できる人材を育成する。
- 7) 人材養成の教育の成果・効果を検証し、その結果を大学教育に反映する。

出典：熊本大学中期目標から抜粋

【分析結果とその根拠理由】

中期目標において、基本的方針や目標を定め、各学部・研究科等は、それぞれの特性に応じた教育研究上の目的を明確に定めている。達成状況の検証・評価については、各アンケート調査や卒業判定、学位論文審査・修了判定等で検証するとともに、授業改善の諸問題への対応等を教育方法改善ハンドブック(KU:T0)に掲載するなどの取組を行っている。

以上のことから、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われていると判断する。

観点 6 - 1 - : 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

平成 20 年度の単位修得状況は、全ての課程で 80%以上である（資料 6 - 1 - - A, B）。学位取得状況は、資料 6 - 1 - - C のとおりである。学生の多くが標準修業年数で卒業・修了している（資料 6 - 1 - - D ~ G）。留年、休学、退学・除籍の状況は、資料 6 - 1 - 2 - H ~ M のとおりである。また、医学部の医師等、薬学部の薬剤師、教育学部の教諭等の取得資格状況は、資料 6 - 1 - - N, O のとおりである。そのほか、大学院学生の中には、優れた研究成果により、論文を発表したり、国内外で学会賞等を受賞している者もいる（資料 6 - 1 - - P ~ R）。

資料 6 - 1 - - A 学士課程の単位修得率（平成 20 年度）

学部名	履修登録者数(人)	単位修得者数(人)	単位修得率(%)
文学部	15,467	13,695	88.5
教育学部	29,581	26,177	88.5
法学部	17,305	14,491	83.7
理学部	18,954	15,676	82.7
医学部	28,334	27,739	97.9
薬学部	8,852	8,143	92.0
工学部	51,253	42,741	83.4

出典：熊本大学学務情報システム（SOSEKI）データを基に作成

資料 6 - 1 - - B 大学院課程の単位修得率（平成 20 年度）

研究科等名	課程	履修登録者数(人)	単位修得者数(人)	単位修得率(%)
教育学研究科	修士課程	856	809	94.5
社会文化科学研究科	博士前期課程	1,258	1,104	87.8
	博士後期課程	184	162	88.0
自然科学研究科	博士前期課程	6,935	6,044	87.2
	博士後期課程	555	466	84.0
医学教育部	修士課程	130	128	98.5
	博士課程	311	256	82.3
保健学教育部	修士課程	229	227	99.1
薬学教育部	博士前期課程	918	853	92.9
	博士後期課程	93	84	90.3
法曹養成研究科	法科大学院の課程	1,156	1,068	92.4

出典：熊本大学学務情報システム（SOSEKI）データを基に作成

資料6 - 1 - -C 学位取得状況

(単位:人)

学部等名	学位名称	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
文学部	学士(文学)	185	190	193	183	173
教育学部	学士(教育学)	332	330	340	308	314
法学部	学士(法学)	260	234	229	215	215
理学部	学士(理学)	191	191	201	183	194
医学部	学士(医学)	95	99	112	94	103
	学士(看護学)	-	-	-	74	77
	学士(保健学)	-	-	-	57	86
薬学部	学士(薬学)	88	94	96	91	99
工学部	学士(工学)	574	596	567	563	581
文学研究科	修士(文学)	37	47	44	42	28
教育学研究科	修士(教育学)	58	56	44	43	53
法学研究科	修士(法学)	15	20	17	16	13
	修士(公共政策学)	10	13	7	5	1
	修士(学術)	-	-	-	1	1
社会文化科学研究科	修士(教授システム学)	-	-	-	5	12
	修士(学術)	-	-	-	2	2
	修士(公共政策学)	-	-	-	-	1
	博士(文学)	4	5	2	6	7
	博士(公共政策学)	1	3	2	3	3
	博士(法学)	1	1	0	1	0
	博士(学術)	1	0	2	3	3
自然科学研究科	修士(理学)	70	84	78	75	78
	修士(工学)	304	342	319	338	333
	博士(理学)	8	11	7	10	13
	博士(工学)	36	36	43	46	34
	博士(学術)	8	10	7	9	11
医学教育部	修士(医科学)	19	20	20	20	16
	博士(医学)	-	-	23	46	44
	博士(生命科学)	-	-	0	1	0
薬学教育部	修士(薬学)	71	68	72	59	79
	博士(薬学)	-	14	13	30	14
	博士(生命科学)	-	-	1	2	1
法曹養成研究科	法務博士(専門職)	-	4	25	28	23

出典:教務課資料を基に作成

資料6 - 1 - -D 卒業者の修業年数別人数 (学士課程)

(単位:人)

学部等名	修業年数	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
文学部	4年	151(78.2)	151(82.5)	158(83.6)	158(84.5)	149(81.9)
	5年	19	23	17	12	8
	6年	3	4	1	1	4
	7年	3	3	4	1	1
	8年	2	2	1	1	1
	9年以上	0	0	0	0	0
	その他	7	7	12	10	10
計	185	190	193	183	173	
教育学部	4年	309(89.8)	301(87.8)	311(90.4)	284(88.8)	289(90.6)
	5年	15	14	18	16	16
	6年	3	9	3	3	5
	7年	4	1	3	3	1
	8年	1	5	5	2	3
	9年以上	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
計	332	330	340	308	314	
法学部	4年	217(87.9)	202(84.5)	202(83.8)	183(83.6)	185(84.5)
	5年	19	11	15	14	14
	6年	6	10	1	5	6
	7年	6	2	1	2	0
	8年	1	3	3	3	1
	9年以上	0	0	1	0	0
	その他	11	6	6	8	9
計	260	234	229	215	215	
理学部	4年	162(79.4)	163(81.1)	167(79.9)	158(81.9)	164(82.8)
	5年	16	13	16	14	17
	6年	0	4	5	4	8
	7年	1	2	1	3	2
	8年	3	1	1	0	1
	9年以上	0	0	0	0	0
	その他	9	8	11	4	2
計	191	191	201	183	194	
医学部医学科	6年	85(84.2)	83(80.6)	96(93.2)	87(86.1)	89(87.3)
	7年	9	12	13	4	13
	8年	1	2	2	3	1
	9年以上	0	2	1	0	0
	その他	0	0	0	0	0
計	95	99	112	94	103	
医学部保健学科	4年	-	-	-	117(81.3)	129(88.4)
	5年	-	-	-	-	17
	その他	-	-	-	14	17
	計	-	-	-	131	163
薬学部	4年	85(90.4)	89(92.7)	93(98.9)	87(93.5)	89(91.8)
	5年	3	3	0	1	7
	6年	0	1	2	1	2
	7年	0	0	0	2	1
	8年	0	1	0	0	0
	9年以上	0	0	1	0	0
	その他	0	0	0	0	0
計	88	94	96	91	99	
工学部	4年	429(75.3)	451(78.3)	436(75.2)	420(72.5)	439(75.0)
	5年	65	53	44	59	63
	6年	17	15	13	18	16
	7年	6	7	9	2	7
	8年	11	5	7	4	5
	9年以上	0	0	0	0	3
	その他	46	65	58	60	48
計	574	596	567	563	581	

注1:その他には編入学者を含む

注2:表内の括弧()は、標準修業年限修了率(標準修業年限修了者数÷標準修業年限入学者数)で単位は%

注3:標準修業年限入学者数は、平成20年度を例とすれば、平成17年度入学者数(医学部医学科は平成15年度入学者数)である。

出典:教務課資料を基に作成

資料 6 - 1 - - E 修了者の修業年数別人数 (修士課程・博士前期課程) (単位:人)

研究科等名	修業年数	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
教育学研究科	2 年	55(90.2)	50(87.7)	42(93.3)	39(79.6)	47(90.4)
	3 年	2	5	1	2	5
	4 年	1	0	1	2	1
	5 年	0	0	0	0	0
	6 年以上	0	1	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	計	58	56	44	43	53
社会文化科学研究科	2 年	-	-	-	7(46.7)	12(63.2)
	3 年以上	-	-	-	-	1
	その他	-	-	-	0	2
	計	-	-	-	7	15
自然科学研究科	2 年	365(92.4)	413(94.7)	379(93.8)	408(93.4)	408(94.2)
	3 年	7	10	11	3	1
	4 年	1	1	3	0	0
	5 年	0	0	0	0	0
	6 年以上	0	0	0	0	0
	その他	1	2	4	2	2
	計	374	426	397	413	411
医学教育部	2 年	19(90.5)	20(95.2)	20(90.9)	20(87.0)	16(94.1)
	3 年	-	0	0	0	0
	4 年	-	-	0	0	0
	5 年	-	-	-	0	0
	6 年以上	-	-	-	-	0
	その他	0	0	0	0	0
	計	19	20	20	20	16
薬学教育部	2 年	69(83.1)	68(97.1)	71(91.0)	59(89.4)	77(91.7)
	3 年	-	0	1	0	2
	4 年	-	-	0	0	0
	5 年	-	-	-	0	0
	6 年以上	-	-	-	-	0
	その他	2	0	0	0	0
	計	71	68	72	59	79

注 1 : その他には早期修了者も含む

注 2 : 表内の括弧 () は、標準修業年限修了率 (標準修業年限修了者数 ÷ 標準修業年限入学者数「長期履修制度適用者は除く。」) で単位は%

注 3 : 標準修業年限入学者数は、平成 20 年度を例とすれば、平成 19 年度入学者数である。

出典 : 教務課資料を基に作成

資料6 - 1 - - F 修了者の修業年数別人数 (博士課程・博士後期課程) (単位:人)

研究科等名	修業年数	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
社会文化科学研究科	3年	6(31.6)	6(50.0)	3(20.0)	8(53.3)	8(42.1)
	4年	-	2	1	4	2
	5年	-	-	1	0	1
	6年	-	-	-	1	0
	7年以上	-	-	-	-	0
	その他	1	1	1	0	2
	計	7	9	6	13	13
自然科学研究科	3年	35(56.5)	38(54.3)	49(74.2)	47(75.8)	40(80.0)
	4年	11	5	4	8	9
	5年	1	5	2	3	5
	6年	1	2	0	1	0
	7年以上	0	0	0	0	0
	その他	4	7	2	6	4
		計	52	57	57	65
医学教育部	4年	-	-	22(32.4)	43(76.8)	41(49.4)
	5年	-	-	-	0	0
	6年以上	-	-	-	-	0
	その他	-	-	1	4	2
		計	-	-	23	47
薬学教育部	3年	-	14(87.5)	14(100.0)	32(97.0)	15(100.0)
	4年	-	-	0	0	0
	5年	-	-	-	0	0
	6年以上	-	-	-	-	0
	その他	-	0	0	0	0
		計	-	14	14	32

注1:その他には早期修了者も含む

注2:表内の括弧()は、標準修業年限修了率(標準修業年限修了者数÷標準修業年限入学者数「長期履修制度適用者は除く。」)で単位は%

注3:標準修業年限入学者数は、平成20年度を例とすれば、平成18年度入学者数(医学教育部は平成17年度入学者数)である。

出典:教務課資料を基に作成

資料6 - 1 - - G 修了者の修業年数別人数 (専門職学位課程) (単位:人)

研究科名	修業年数	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
法曹養成研究科 (3年標準コース)	3年	-	23(76.7)	23(71.9)	19(54.3)
	4年	-	-	3	3
	5年	-	-	-	0
		計	-	23	26
法曹養成研究科 (2年短縮コース)	2年	4(100.0)	2(100.0)	2(100.0)	1(100.0)
	3年	-	0	0	0
	4年	-	-	0	0
	5年	-	-	-	0
		計	4	2	2

注1:表内の括弧()は、標準修業年限修了率(標準修業年限修了者数÷標準修業年限入学者数)で単位は%

注2:標準修業年限入学者数は、平成20年度を例とすれば、3年標準コースは平成18年度入学者数、2年短縮コースは平成19年度入学者数である。

出典:教務課資料を基に作成

資料6 - 1 - - H 学士課程の留年者数及び留年率 (単位:人(%))

学部名	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
文学部	64(7.8)	56(6.9)	56(6.9)	53(6.6)	53(6.7)
教育学部	64(4.6)	62(4.5)	62(4.6)	50(3.8)	47(3.6)
法学部	70(6.7)	84(8.4)	94(9.7)	79(8.4)	66(7.1)
理学部	43(5.0)	49(5.8)	60(7.1)	55(6.6)	53(6.3)
医学部	23(3.0)	45(4.9)	48(4.4)	50(4.1)	44(3.5)
薬学部	11(2.9)	15(3.8)	16(4.0)	13(3.3)	11(2.8)
工学部	197(7.6)	175(6.7)	189(7.4)	218(8.7)	226(9.0)

注:留年率=留年者数÷全学年数(前年度5月1日現在)

出典:熊本大学学務情報システム(SOSEKI)データを基に作成

資料6 - 1 - - I 大学院課程の留年者数及び留年率 (単位:人(%))

研究科等名	課程	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
教育学研究科	修士課程	7(5.6)	5(4.7)	5(5.1)	9(8.6)	6(5.2)
社会文化科学研究科	博士前期課程	-	-	4(26.7)	7(20.6)	10(8.8)
	博士後期課程	12(27.3)	14(27.5)	15(26.3)	14(20.0)	16(22.5)
自然科学研究科	博士前期課程	17(2.0)	10(1.2)	8(0.9)	11(12.3)	16(1.8)
	博士後期課程	53(20.3)	49(18.1)	42(16.0)	37(14.4)	34(14.1)
医学教育部	修士課程	0(0)	0(0)	1(2.2)	0(0)	6(15.0)
	博士課程	0(0)	0(0)	3(1.0)	5(1.7)	5(1.6)
保健学教育部	修士課程	-	-	-	-	0(0)
薬学教育部	博士前期課程	1(0.7)	1(0.7)	0(0)	3(2.0)	2(1.2)
	博士後期課程	0(0)	2(2.8)	1(1.4)	2(3.1)	2(3.6)
法曹養成研究科	法科大学院の課程	4(11.8)	6(9.0)	18(18.6)	22(22.7)	18(20.5)

注: 留年率 = 留年者数 ÷ 全学年数 (前年度 5 月 1 日現在)

出典: 熊本大学学務情報システム (SOSEKI) データを基に作成

資料6 - 1 - - J 学士課程の休学者数及び休学率 (単位:人(%))

学部名	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
文学部	16(2.0)	13(1.6)	15(1.9)	16(2.0)	18(2.2)
教育学部	14(1.0)	17(1.3)	20(1.5)	14(1.1)	20(1.6)
法学部	14(1.4)	15(1.5)	14(1.5)	25(2.7)	13(1.4)
理学部	16(1.9)	15(1.8)	12(1.4)	15(1.8)	15(1.8)
医学部	7(0.8)	10(0.9)	7(0.6)	11(0.9)	12(1.0)
薬学部	6(1.5)	3(0.8)	3(0.8)	5(1.3)	11(2.8)
工学部	25(1.0)	31(1.2)	28(1.1)	33(1.3)	25(1.0)

注: 休学率 = 休学者数 ÷ 全学年数 (当年度 5 月 1 日現在)

出典: 熊本大学学務情報システム (SOSEKI) データを基に作成

資料6 - 1 - - K 大学院課程の休学者数及び休学率 (単位:人(%))

研究科等名	課程	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
教育学研究科	修士課程	1(0.9)	3(3.0)	2(1.9)	4(3.4)	7(6.9)
社会文化科学研究科	博士前期課程	-	-	1(2.9)	0(0)	5(2.7)
	博士後期課程	12(23.5)	7(12.3)	8(11.4)	6(8.5)	9(11.3)
自然科学研究科	博士前期課程	13(1.5)	9(1.1)	8(0.9)	11(1.2)	9(1.0)
	博士後期課程	28(10.4)	27(10.3)	26(10.1)	18(7.5)	29(11.4)
医学教育部	修士課程	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1.6)
	博士課程	1(0.5)	2(0.7)	12(4.0)	11(3.6)	11(3.7)
保健学教育部	修士課程	-	-	-	0(0)	0(0)
薬学教育部	博士前期課程	3(2.0)	3(2.1)	2(1.4)	2(1.2)	2(1.1)
	博士後期課程	0(0)	1(1.4)	2(3.1)	2(3.6)	2(3.5)
法曹養成研究科	法科大学院の課程	3(4.5)	7(7.2)	18(18.6)	16(18.2)	10(10.9)

注: 休学率 = 休学者数 ÷ 全学年数 (当年度 5 月 1 日現在)

出典: 熊本大学学務情報システム (SOSEKI) データを基に作成

資料6 - 1 - - L 学士課程の退学・除籍者数 (単位:人)

学部名	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
文学部	16	16	12	16	8
教育学部	12	12	7	17	17
法学部	16	16	20	18	23
理学部	20	17	15	8	11
医学部	2	2	1	6	4
薬学部	5	5	3	2	3
工学部	67	67	57	39	52

注: 前年度実績

出典: 熊本大学学務情報システム (SOSEKI) データを基に作成

資料6 - 1 - -M 大学院課程の退学・除籍者数

(単位:人)

研究科等名	課程	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
教育学研究科	修士課程	0	0	2	3	4
社会文化科学研究科	博士前期課程	-	-	0	1	5
	博士後期課程	0	0	3	3	2
自然科学研究科	博士前期課程	34	34	18	23	12
	博士後期課程	28	28	9	9	6
医学教育部	修士課程	0	0	4	2	2
	博士課程	12	12	7	5	8
保健学教育部	修士課程	-	-	-	-	0
薬学教育部	博士前期課程	9	9	8	1	0
	博士後期課程	4	4	5	0	0
法曹養成研究科	法科大学院の課程	3	3	3	6	8

注:前年度実績

出典:熊本大学学務情報システム(SOSEKI)データを基に作成

資料6 - 1 - -N 国家試験合格状況

資格	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
	合格者数(人) (受験者数(人))	合格者数(人) (受験者数(人))	合格者数(人) (受験者数(人))	合格者数(人) (受験者数(人))	合格者数(人) (受験者数(人))
	合格率(%)	合格率(%)	合格率(%)	合格率(%)	合格率(%)
司法試験			1(4) 25.0	2(22) 9.1	7(33) 21.2
医師	87(94) 92.6	93(98) 94.9	98(110) 89.1	93(94) 98.9	100(103) 97.1
看護師	77(79) 97.5	72(80) 90.0		65(65) 100.0	64(65) 98.5
保健師				70(74) 94.6	77(77) 100.0
臨床検査技師	33(35) 94.3	32(37) 86.5		27(27) 100.0	37(38) 97.4
診療放射線技師	40(46) 87.0	31(37) 83.8		22(25) 88.0	34(43) 79.1
助産師	20(20) 100.0	20(20) 100.0	18(20) 90.0	13(14) 92.9	17(17) 100.0
薬剤師	75(88) 85.2	66(94) 70.2	75(95) 78.9	69(91) 75.8	77(98) 78.6

注:平成 16 年度~18 年度の看護師,保健師,臨床検査技師,診療放射線技師及び助産師の合格率等は,医療技術短期大学部のもの

出典:各学部調査資料等を基に作成

資料6 - 1 - -0 教育学部における資格取得状況

(単位:人)

取得資格	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
小学校教諭	205	202	210	192	195
中学校教諭	227	226	242	211	206
高等学校教諭	271	266	287	248	209
特別支援学校教諭	27	27	23	26	26
幼稚園教諭	97	80	74	74	68
養護教諭	51	48	51	37	33
司書教諭	57	73	46	36	21
社会福祉士	7	9	7	8	5
看護師	19	17	20	0	2

出典:組織評価自己評価書及び現況調査表等を基に作成

資料6 - 1 - -P 学生 (大学院課程) の受賞状況 (単位: 件)

研究科等名	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
教育学研究科	4	4	5	9	10
社会文化科学研究科	0	0	0	0	1
自然科学研究科	3	21	35	65	66
医学教育部	14	30	27	29	29
薬学教育部	8	17	26	27	8

出典: 組織評価自己評価書及び現況調査表等を基に作成

資料6 - 1 - -Q 学生 (大学院課程) の主な受賞例

研究科等名	主な受賞例
教育学研究科	日本産業技術教育学会九州支部優秀発表賞, 熊本県美術協会奨励賞, 日本クラシック音楽コンクール第3位(ピアノ), 新匠工芸会新人賞(工芸) ほか
社会文化科学研究科	第9回アジア生命倫理学会学生部門優秀発表賞
自然科学研究科	日本液晶学会論文賞, 溶接学会奨学賞, 日本金属学会優秀ポスター賞, 地盤工学研究発表会優秀論文発表者賞, 情報処理学会優秀発表学生賞, Young Scientist Award (2nd International Symposium on Explosion, Shock Wave and Hypervelocity Phenomena), 熊本アートポリス設計競技入選, 電気学会優秀論文発表賞, 種子島ロケットコンテストロケット部門2・第1位, 日本塑性加工学会優秀講演奨励賞, Best Poster Presentation Award (International 6th Congress of AOSCE), Best Paper Award, International Symposium on Earth Resource Technology 2008 精密工学会ベストプレゼンテーション賞 ほか
医学教育部	Silver Prize (Asian Cyclodextrin Conference 2007), Young Investigator Award (13th Conference on Retroviruses and Opportunistic Infections, Denver, CO, U.S.A.), 日本循環器学会 Circulation Journal Award 優秀賞, The 8th US-Japan-Asia Dialogue Cardiovascular Diseases: 臨床研究セッション Award (Pfizer Japan Inc.), 日本サイトメトリー学会学術奨励賞(最優秀講演), 日本眼科学会学術展示優秀賞, 日本免疫学会総会学術集会 Melchers' Travel Award, 日本エイズ学会学術集会優秀演題賞, 日本高血圧学会 Young Investigator's Award ほか
薬学教育部	第3回トランスポーター研究会優秀演題賞, 第25回日本薬学会九州支部大会優秀発表賞, 第25回有機合成化学セミナーポスター賞, 第8回日本蛋白質科学会年会ポスター賞, 第6回熊本大学フォーラム優秀発表賞, 日本アンドロロジ学会賞(第27回学術大会会長賞), 平成20年度笹川科学研究助成金, 熊本大学学生表彰 ほか

出典: 組織評価自己評価書及び現況調査表等を基に作成

資料6 - 1 - -R 学生 (大学院課程) の論文及び学会発表件数 (単位: 件)

研究科等名	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
教育学研究科	8	4	10	9	2
社会文化科学研究科	15	15	34	67	57
自然科学研究科	1,592	1,777	1,823	1,669	1,649
医学教育部	194	225	280	283	310
保健学教育部	-	-	-	-	0
薬学教育部	259	303	276	315	299

出典: 組織評価自己評価書及び現況調査表等を基に作成

【分析結果とその根拠理由】

単位の修得率, 学位取得状況は, いずれも高い水準を維持している。留年, 休学, 退学・除籍の状況は, いずれも低い水準で推移している。国家試験の合格率は, 医師, 看護師, 臨床検査技師等, 高い水準で推移している。大学院学生の研究成果は, 学会等で発表が行われるなど高い評価を受けている。

以上のことから, 各学年や卒業(修了)時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について, 単位修得, 進級, 卒業(修了)の状況, 資格取得の状況等から, あるいは卒業(学位)論文等の内容・水準から判断して, 教育の成果や効果が上がっていると判断する。

観点 6 - 1 - : 授業評価等, 学生からの意見聴取の結果から判断して, 教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

授業評価等のため 授業改善のためのアンケートを実施している(前掲資料 3 - 2 - -D~G)。同結果から, 授業が全般的に有意義であるという水準にあることが検証できた(資料 6 - 1 - -A)。なお, 同アンケートには, 授業の内容・方法等の設問に加え自由記述欄があり(資料 6 - 1 - -B), 同結果の自由記述により要改善授業の存在が明らかになったものもあり, 個別に迅速な改善を指導している(前掲資料 3 - 2 - -1)。

資料 6 - 1 - -A 授業の検証状況

質問: 全体として, この授業はどの程度有意義でしたか。			
1 非常に有意義だった 2 有意義だった 3 あまり有意義ではなかった 4 まったく有意義ではなかった			
学部等名	平成 20 年前学期平均値	平成 20 年後学期平均値	
文学部	1.802	1.810	
教育学部	1.826	1.891	
法学部	1.887	1.912	
理学部	2.094	2.015	
医学部医学科	1.900	1.861	
医学部保健学科	1.889	1.854	
薬学部	1.811	1.790	
工学部	2.170	2.116	
教養教育	1.897	1.877	
教育学研究科	1.386	1.532	
社会文化科学研究科	1.582	1.471	
自然科学研究科	1.906	1.730	
医学教育部	1.973	1.750	
保健学教育部	-	-	
薬学教育部	1.897	1.704	
法曹養成研究科	1.878	1.824	

注: 平均値 = 回答数を乗じた数 ÷ 回答者数

出典: 授業改善のためのアンケート実施報告書(2008年度実施分)を基に作成

資料 6 - 1 - -B 学生による「授業改善のためのアンケート」の実施要領(平成 20 年度)

目的, 科目, 時期	授業改善を目的とし, 教養科目と専門科目の全てを対象とする。 原則として, 学期の最終授業の終了時に実施する。
授業内容・方法に関する質問	質問 1: この授業の難易度は, 適切でしたか。 質問 2: この授業の進行の速さは, 適切でしたか。 質問 3: 教員の説明は, 聞き取りやすかったですか。 質問 4: 板書の仕方は, 適切でしたか。 質問 5: 教材・教具は, 授業内容を理解するうえで, 有効でしたか。 質問 6: 視聴覚機器などの使用は, 授業内容を理解するうえで, 有効でしたか。 質問 7: 教員は, 授業を分かりやすくする工夫をしていましたか。 質問 8: 教員との双方向的なやりとりが, どの程度図られていましたか。 質問 9: この授業に対する教員の熱意は, どの程度感じられましたか。
学生の受講状況に関する質問	質問 10: シラバスや授業中に示された授業の目標を, 把握していましたか。 質問 11: この授業について 1 週あたり, どの程度予習・復習などをしましたか。 質問 12: あなた自身は, 授業の目標をどの程度達成したと思いますか。 質問 13: 授業の内容や関連分野に, 関心や問題意識をもつようになりましたか。 質問 14: この授業にどの程度出席しましたか。
総合的な質問	質問 15: 全体として, この授業はどの程度有意義でしたか。
自由記述欄	この授業で良かった点, 改善してほしい点を, 具体的に書いて下さい。
実施者	当該科目の担当教員がアンケート用紙等を配付し, 学生が回収する。
分析者	熊本大学教育会議 FD 部会

出典: 教育会議 FD 部会資料を基に作成

【分析結果とその根拠理由】

授業改善のためのアンケートを実施し、授業が全体的に有意義であるということが検証できた。また、要改善授業については、個別に迅速な改善を指導している。

以上のことから、授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっていると判断する。

観点 6 - 1 - : 教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果について定量的な面も含めて判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

平成 20 年度の学部卒業者の就職率は、学部によって差はあるものの、いずれの学部も 80%以上である。また、理学部、工学部、薬学部は、大学院への進学者が多い（資料 6 - 1 - -A~C）。修士課程・博士前期課程及び博士課程・博士後期課程の就職・進学状況は資料 6 - 1 - -D, E のとおりとなっている。修士課程・博士前期課程から博士課程・博士後期課程への進学者もあり、また、多くの修了者が多様な職種に就職している（資料 6 - 1 - -F, G）。

資料 6 - 1 - -A 学部卒業者の就職・進学状況（平成 20 年度）

	文学部	教育学部	法学部	理学部	医学部	薬学部	工学部
卒業者(人)	173	314	215	194	266	99	581
就職希望者(人)	135	243	168	65	141	31	217
就職者(人)	126	200	163	58	141	29	212
就職率(%)	93.3	82.3	97.0	89.2	100	93.6	97.7
進学者(人)	21	48	22	109	17	63	350
進学率(%)	12.1	15.3	10.2	56.2	6.4	63.6	60.2

注：就職率 = 就職者 ÷ 就職希望者，進学率 = 進学者 ÷ 卒業者

出典：キャリア支援課調査資料から抜粋

資料6 - 1 - - B 学部卒業者の産業別就職状況 (平成20年度)

	・ G	(G	・ G	! G	G	+ G	ソ G
農・林・漁業・鉱業	1	0	0	0	0	0	0
建設業	5	1	0	1	0	0	36
- ~ 1 9 :	食料品・飲料・たばこ・飼料	5	1	2	3	0	1
	繊維工業	0	0	0	0	0	0
	印刷・同関連業	0	0	0	0	0	1
	化学工業,石油・石炭製品	4	4	3	8	0	8
	鉄鋼業,非鉄金属・金属製品	1	1	0	0	0	16
	はん用・生産用・業務用機械器具	2	3	8	0	3	13
	電子部品・デバイス・電子回路	1	1	3	2	0	21
	電気・情報通信機械器具	2	0	5	1	0	23
	輸送用機械器具	0	0	2	0	0	22
	その他	1	0	1	0	0	4
電気・ガス・熱供給・水道業	2	0	6	0	0	5	
情報通信業	14	5	12	10	0	28	
運輸業,郵便業	8	2	4	1	0	8	
卸売業・小売業	13	9	18	0	0	11	
金融業・保険業	26	23	32	8	0	2	
不動産業,物品賃貸業	2	3	3	0	0	2	
学術研究,専門・技術サービス業	4	5	3	4	0	4	
宿泊業,飲食サービス業	1	0	0	1	0	1	
生活関連サービス業,娯楽業	5	4	1	2	0	1	
教育,学習支援業	9	116	4	8	1	3	
医療,福祉	2	3	5	3	126	10	
複合サービス事業	1	1	0	0	0	0	
サービス業	0	0	4	0	0	0	
公務	15	16	47	5	11	1	
上記以外	2	2	0	1	0	4	
計	126	200	163	58	141	29	

出典：キャリア支援課資料から抜粋

資料6 - 1 - - C 学部卒業者の主な就職先 (平成 20 年度)

(<http://www.kumamoto-u.ac.jp/careersupport/>)

学部名	主な就職先
文学部	国家公務員, 地方公務員, 熊本県公立学校教員, 神奈川県公立学校教員, 私立高校教員, 国立大学職員, CSK ホールディングス, イズミ, 伊藤忠商事, イワサキコーポレーション, 大分銀行, 九電工, キリンビール, クボタ, 熊本第一信用金庫, 熊本日日新聞社, 再春館製薬所, 西部ガス, ジュンク堂書店, 済生会熊本病院, 全日本空輸, 損害保険ジャパン, 第一三共, 第一生命保険, 大王製紙, 竹中工務店, 筑邦銀行, 東京海上日動火災保険, 東京電力, 日東電工, 日本航空, 日本通運, パナソニック, パロマ工業, 肥後銀行, 福音館書店, 富士通ビー・エス・シー, 豊和銀行, 三井住友海上火災保険, 宮崎銀行, 宮崎太陽銀行, 明治安田生命保険, ゆうちよ銀行, 郵便事業, リコー, ローソン ほか
教育学部	熊本県公立学校教員, 福岡県公立学校教員, 佐賀県公立学校教員, 大分県公立学校教員, 宮崎県公立学校教員, 鹿児島県公立学校教員, 神奈川県公立学校教員, 埼玉県公立学校教員, 福岡市立学校教員, 川崎市立学校教員, 横浜市立学校教員, 私立学校教員, 国家公務員, 地方公務員, 国立大学職員, JTB九州, アルペン, エスケーホーム, 大分銀行, 大塚製薬, 化学及血清療法研究所, 熊本第一信用金庫, 熊本ファミリー銀行, 再春館製薬所, 佐賀銀行, 佐賀共栄銀行, サントリー, ジャパネットたかた, 大和証券, 筑邦銀行, 東京海上日動火災保険, 東芝メディカルシステムズ, 富田薬品, 南国殖産, 肥銀ビジネスサービス, 肥後銀行, 久光製薬, 福岡銀行, 福岡ソフトバンクホークスマーケティング, みずほフィナンシャルグループ, 三菱電機エンジニアリング, 早稲田スクール ほか
法学部	国家公務員, 地方公務員, NEC ソフトウェア九州, NTT 西日本, 伊藤忠商事, エーザイ, 大分銀行, 大塚製薬, 鹿児島銀行, 鹿児島読売テレビ, 化学及血清療法研究所, 関西電力, キヤノンマーケティングジャパン, 九州電力, 九州旅客鉄道, 近畿日本ツーリスト, シャープ, ジャパネットたかた, スカパーJSAT, 住友商事, センイレブンジャパン, センリン, 中央三井信託銀行, 佐賀銀行, 東京海上日動火災保険, トヨタ自動車九州, 西日本新聞社, 西日本鉄道, ニトリ, 日本アイ・ビー・エム, 日本銀行, 日本生命保険, パナソニック電工, 肥後銀行, フィデック, 福岡銀行, 福岡放送, 牧野フライス製作所, みずほフィナンシャルグループ, 三菱UFJ証券, 三菱UFJ信託銀行, 三菱重工業, 三菱電機, 三菱東京UFJ銀行, 安川電機, ゆうちよ銀行, 郵便事業 ほか
理学部	地方公務員, 鹿児島県公立学校教員, 私立高校教員, I&S BDDO, JTB九州, KIS, NEC マイクロシステム, NTT データ九州, 朝日生命保険, アステラス製薬, イノス, エヌ・ティ・ティファシリティーズ, 大分県医療生活協同組合, 鹿児島信用金庫, 化学及血清療法研究所, かんぼ生命保険, 九州旅客鉄道, 熊本ファミリー銀行, 再春館製薬所, 済生会熊本病院, 住友化学大分分析センター, 武田薬品工業, タマホーム, チッソ, 日清医療食品, 日本アイ・ビー・エム共同ソリューションサービス, 日本ユニシス, 肥後銀行, フィデック, ふくや, 富士電機, 宮崎銀行, 山崎製パン ほか
医学部	地方公務員, 九州大学病院, 京都大学医学部附属病院, 熊本赤十字病院, 熊本大学医学部附属病院, 熊本医療センター, 国立病院機構九州ブロック, 済生会熊本病院, 東芝メディカルシステムズ, 長崎大学病院, 日本赤十字社医療センター, 日立メディコ, フィリップスエレクトロニクスジャパン, 福岡大学病院, 宮崎大学医学部附属病院 ほか
薬学部	地方公務員, 大賀薬局, 熊本機能病院, 江南病院, 済生会熊本病院, 佐賀大学医学部附属病院, シミック, 総合メディカル, 第一三共, 武田薬品工業, 日本調剤 ほか
工学部	国家公務員, 地方公務員, NEC セミコンダクター九州・山口, NTT データ, NTT データコムウェア, YKK AP, イナックス, 大林組, 関西電力, キヤノン, 九州電力, 九州旅客鉄道, 九電工, 京セラ, 西部ガス, スズキ, 全日本空輸, センリン, 大日本印刷, ダイハツ工業, 大和ハウス工業, デンソー, 東芝, トヨタ自動車, トヨタ自動車九州, 日本航空インターナショナル, 野村證券, 野村総合研究所, パナソニック, パナソニックコミュニケーションズ, 肥後銀行, 日立製作所, 日立造船, ファナック, 富士重工業, 富士通, 富士電機, 富士電機システムズ, プリジストン, マツダ, 三菱重工業, 三菱電機, 安川電機 ほか

出典：キャリア支援課資料から抜粋

資料6 - 1 - - D 大学院修了者 (修士課程・博士前期課程) の就職・進学状況 (平成 20 年度)

	文学研究科	教育学研究科	法学研究科	社会文化科学研究科	自然科学研究科	医学教育部	薬学教育部
修了者(人)	28	53	15	15	411	16	79
就職希望者(人)	18	46	9	14	369	7	62
就職者(人)	16	39	9	14	363	6	61
就職率(%)	88.9	84.8	100	100	98.4	85.7	98.4
進学者(人)	8	0	1	0	29	8	16
進学率(%)	28.6	0	6.7	0	7.1	50.0	20.3

注：就職率 = 就職者 ÷ 就職希望者, 進学率 = 進学者 ÷ 修了者

出典：キャリア支援課資料から抜粋

資料6 - 1 - - E 大学院修了者 (博士課程・博士後期課程) の就職・進学状況 (平成 20 年度)

	社会文化科学研究科	自然科学研究科	医学教育部	薬学教育部
修了者数(人)	13	50	35	13
就職希望者(人)	10	47	32	13
就職者(人)	10	46	32	13
就職率(%)	100	97.9	100	100
進学者(人)	0	0	0	0

出典：キャリア支援課資料から抜粋

資料6 - 1 - - F 大学院修了者の産業別就職状況 (平成 20 年度)

	・)	\$)		G		+		.
	M	M		M	D	M	D	M	D	M	D	
農・林・漁業・鉱業	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
建設業	0	0	0	0	0	44	2	0	0	0	0	0
- 1 9 :	食料品・飲料・たばこ・飼料	0	0	0	0	4	1	0	1	0	1	0
	繊維工業	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0
	印刷・同関連業	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
	化学工業,石油・石炭製品	0	0	1	0	0	29	7	2	0	16	5
	鉄鋼業,非鉄金属・金属製品	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0
	はん用・生産用・業務用機械器具	1	0	0	0	0	23	2	0	0	0	1
	電子部品・デバイス・電子回路	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0
	電気・情報通信機械器具	0	0	1	0	0	62	0	0	0	0	0
	輸送用機械器具	0	0	0	1	0	41	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	
情報通信業	4	0	2	4	0	24	2	0	0	0	0	
運輸業,郵便業	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	
卸売業・小売業	0	0	0	0	0	0	0	2	0	9	0	
金融業・保険業	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	
不動産業,物品賃貸業	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
学術研究,専門・技術サービス業	1	2	3	1	1	16	6	0	2	4	1	
宿泊業,飲食サービス業	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
生活関連サービス業,娯楽業	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
教育,学習支援業	3	33	0	7	6	4	24	0	10	0	5	
医療,福祉	2	1	0	0	0	1	0	2	19	26	1	
複合サービス事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
サービス業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
公務	2	3	0	1	2	7	1	0	0	5	0	
上記以外	0	0	1	0	1	2	1	0	0	1	0	
計	16	39	9	14	10	363	46	6	32	61	13	

出典：キャリア支援課資料から抜粋

資料 6 - 1 - - G 大学院修了者の主な就職先 (平成 20 年度) (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/careersupport/>)

研究科等名		主な就職先
文学研究科	M	国家公務員, 地方公務員, 私立学校教員, ASO 田園空間博物館, イノス, キタムラ, セイコウ, ヤマザキマザック, 九州労働金庫, 熊本朝日放送, 熊本赤十字病院, 南日本銀行 ほか
教育学研究科	M	熊本県公立学校教員, 地方公務員, パソナ, 龍山学苑 ほか
法学研究科	M	アストラゼネカ, 熊本県歯科医師会, 三洋電機, テレビ熊本, ナバック, 山口銀行 ほか
社会文化科学研究科	M	地方公務員, 熊本県公立学校教員, 埼玉県公立学校教員, 私立学校教員, 日産自動車, 富士通南九州システムエンジニアリング, ベネッセコーポレーション, ユーキャン ほか
	D	地方公務員, 県立高校教員, 八代工業高等専門学校教員, 若手県立大学教員, 熊本保健科学大学教員, 宮崎大学教員, 構造計画研究所 ほか
自然科学研究科	M	国家公務員, 地方公務員, 私立高校教員, NTT ドコモ, TOTO, 旭化成, 鹿島建設, 川崎重工業, 関西電力, キヤノン, 京セラ, キリンファーマ, 九州電力, 九州旅客鉄道, 九電工, クボタ, グリコ乳業, 西部ガス, シャープ, 全日本空輸, 大成建設, 帝人, デンソー, 東芝, 凸版印刷, トヨタ自動車, ニコン, 日産自動車, 日本電気, パナソニック, 日立製作所, 富士ゼロックス, 富士通, 富士フイルム, 本田技研工業, マルハニチロ食品, 三菱重工業, 三菱電機, ヤマハ発動機, リコー ほか
	D	地方公務員, 熊本県公立高校教員, 明石工業高等専門学校教員, 佐世保工業高等専門学校教員, 熊本県立技術短期大学, 熊本大学, 化学及血清療法研究所, チッソ, 日油, 日本放送協会, 間組, 分子科学研究所, 堀場製作所, ヤマザキマザック, 理化学研究所 ほか
医学教育部	M	カワニシホールディングス, 熊本大学医学部附属病院, シノテスト, 信州大学医学部附属病院, 玉名化学, 悠香 ほか
	D	大草地域医療センター, 荒尾市民病院, 牛深市民病院, 医薬品医療機器総合機構, 熊本済生会病院, 熊本大学医学部附属病院, 熊本地域医療センター, 国立がんセンター研究所, 国立国際医療センター ほか
薬学教育部	M	地方公務員, 飯塚病院, イオンリテール, 医薬品医療機器総合機構, 宇部興産, ニプロ, 日本新薬, 愛媛大学医学部附属病院, 大分大学医学部附属病院, 小野薬品工業, 花王, 熊本赤十字病院, 熊本地域医療センター, 熊本労災病院, クラシエ製薬, 国立病院機構佐賀病院, 塩野義製薬, 新日本科学, 済生会熊本病院, 聖マリア病院, バイエルン薬品, 久光製薬 ほか
	D	崇城大学教員, アステラス製薬, 小野薬品工業, 鹿児島大学病院, 熊本大学, 新日本科学, 大正製薬, 武田薬品工業 ほか
法曹養成研究科		平田機工

出典：キャリア支援課資料から抜粋

【分析結果とその根拠理由】

理学部, 工学部及び薬学部の卒業生は, 学士課程から大学院修士課程への進学者が多くなっている。修士課程・博士前期課程から博士課程・博士後期課程への進学意欲が高い一方, 多くの修了者が多様な職種に就職している。

以上のことから, 教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について, 就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果について定量的な面も含めて判断して, 教育の成果や効果が上がっていると判断する。

観点 6 - 1 - : 卒業（修了）生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

卒業（修了）者、就職先、学会、交流校等の関係者からの意見聴取を実施している（資料 6 - 1 - - A）、卒業（修了）者及び就職先の企業等へのアンケート調査を、平成 17 年度と平成 19 年度に実施した（資料 6 - 1 - - B）。回収率が比較的に高い就職先の企業等アンケートによると、一般常識、教養・基礎学力等、あらゆる項目で高水準であるとの回答を得た（資料 6 - 1 - - C）。平成 17 年度の結果、コミュニケーション力がやや不足しているということを受け、その対策としてプロジェクトベースラーニング、対話型授業、双方向授業の充実を図るなどコミュニケーション力の向上に努め、平成 19 年度の結果では改善されている。そのほか、自然科学研究科では、国際的なコミュニケーション力の強化を図るため、授業の全面英語化（資料 6 - 1 - - D, E）に取り組み、医学教育部では、開講している一部の授業を英語で実施している（資料 6 - 1 - - F）。

資料 6 - 1 - - A 学外関係者（卒業（修了）生、就職先、学会、交流校等）からの意見聴取状況

意見聴取の方法	概要
学外者アンケート	学部卒業生・大学院修了者アンケート、就職先の企業等アンケート
インターネット活用	OB・OG メッセージによる調査、熊本大学メールマガジンへの投稿等
来学者への面接調査	ホームカミングデイ、熊本大学就職講座、インターンシップ報告会、企業等学内説明会、熊大ワークデザイン講座等の講師、参加者
海外関係者意見聴取	熊本大学フォーラム、環黄海学長フォーラム等の参加者、交流校

出典：教務課、キャリア支援課、国際課等調査資料を基に作成

資料 6 - 1 - - B 学外者アンケートの実施状況及び主要な質問

学外者アンケート	平成 17 年度			平成 19 年度		
	送付数	回答数	回収率 (%)	送付数	回答数	回収率 (%)
学部卒業生アンケート	5,243	403	7.7	6,212	537	8.6
大学院修了者アンケート	1,048	98	9.4	1,013	94	9.3
就職先の企業等アンケート	930	361	38.8	200	78	39.0
主要な設問（複数選択回答方式）						
共通質問	質問 1：社会経験上、有益な一般教育（教養教育）の内容は、如何なるものですか？					
	質問 2：社会経験上、有益な専門教育の内容は、如何なるものですか？					
	質問 3：将来、重要になる必要な教育をどのように考えていますか？					
	質問 4：社会は、熊大卒業生をどのように評価していると考えていますか？					
卒業生・修了生用	質問 5：卒業生、修了生は、本学の教育をどう評価するか？					
	質問 6：満足度（在学当時の授業科目の開設状況などを含めて）					

出典：教務委員会資料、教務課資料を基に作成

資料 6 - 1 - - C 就職先の企業等を対象として行った能力評価に関するアンケート調査結果 (単位: %)

社会経験上、有益な知識・能力	学部卒業生の能力評価			修士課程修了生の能力評価		
	高水準	低水準	期待	高水準	低水準	期待
一般常識、教養・基礎学力	46.3	-	-	12.7	-	-
広い専門知識	16.6	-	-	4.7	-	-
高度な専門知識・技術	11.1	-	-	18.0	-	19.7
責任感・倫理観	17.5	-	-	4.7	-	-
積極性・目的意識・熱意・意欲	14.1	10.5	30.7	7.2	3.0	16.6
コミュニケーション力	11.4	11.4	33.2	4.2	4.2	17.5
プレゼンテーション力	-	6.1	-	-	3.0	-
独創性・発想力・企画力・感性	-	14.1	31.3	5.0	4.2	17.2
指導力・マネジメント力・協調性	-	10.0	25.8	4.4	3.9	13.3
課題発見・解決力	-	-	23.3	3.6	-	-

社会経験上、有益な知識・能力	非常に優秀	優秀	普通	不満	極めて不満	不明	無回答
一般常識、教養・基礎学力	10.3	55.1	28.2	0	0	1.3	5.1
専門知識・技術	12.8	48.7	29.5	2.6	0	1.3	5.1
英語を含めた外国語運用力	2.6	9.0	57.6	10.3	1.3	12.8	6.4
一般的なコミュニケーション力	10.3	32.1	48.6	2.6	0	1.3	5.1
積極性	11.5	30.8	44.9	5.1	0	2.6	5.1
プレゼンテーション力	5.1	29.5	47.5	9.0	0	3.8	5.1
ITリテラシー・コンピュータ操作能力	9.0	23.1	53.9	3.8	0	5.1	5.1
独創性・発想力・企画力	5.1	32.1	39.8	14.1	0	3.8	5.1
課題発見・解決力	7.7	26.9	46.2	10.3	0	3.8	5.1
指導力・マネジメント力	6.4	32.1	46.1	0	6.4	2.6	6.4
責任感・倫理観・誠実さ	14.1	50.0	26.9	2.6	0	1.3	5.1
協調性・目的意識・熱意・意欲	12.8	35.9	38.5	6.4	0	1.3	5.1
経済感覚・経営戦略	6.4	10.3	56.4	11.5	0	10.3	5.1
環境適応力	7.7	29.5	47.5	3.8	1.3	5.1	5.1
国際感覚	2.6	7.7	57.7	11.5	1.3	14.1	5.1

注：平成 19 年度の結果は、学部卒業生及大学院修了生を合計したもの

出典：教育の効果に関するアンケート調査報告書（平成 17・19 年度）を基に作成

資料 6 - 1 - - D 授業の全面英語化への取組 (<http://www.gsst.kumamoto-u.ac.jp/grasius/>)



出典：熊本大学大学院自然科学研究科ホームページから抜粋

資料6 - 1 - - E 授業の全面英語化に係る開講科目一覧 (平成 20 年度)

科目名 (サブタイトル)	客員教授名	学内担当教員
総合科学 C-1 (Synthetic and Mechanistic Organic Chemistry and NMR Spectroscopy)	Sethuraman Sankararaman	西野 宏
総合科学 C-2 (Bio-Inorganic Nanohybrid Materials)	Jin-Ho Choy	松本 泰道
総合科学 C-3 (Advanced Coordination Chemistry (先端錯体化学特論))	Etsuko Fujita	杉本 学
総合科学 C-4 (Extraction and reactions of biological materials in sub and supercritical fluids)	Artiwan SHOTIPRUK	後藤 元信
総合科学 C-5 (Advanced Power Electronics)	Stephane Azzopardi	檜山 隆
総合科学 C-6 (Thermochemical conversion of organic materials for energy and petrochemical feedstock)	Levent Ballice	松本 泰道
総合科学 C-7 (Wireless Sensor Networks)	Radosveta Ivanova Sokullu	檜山 隆
総合科学 C-8 (X-ray CT and full field measurement methods used to study strain localization in Geomechanics)	Jacque Desrues	大谷 順
総合科学 C-9 (Estimation theory and optimal filtering for robotics.)	Roland Chapuis	胡 振程
総合科学 C-10 (Global distribution, behavior and fate of emerging organic pollutants: Perfluorochemicals, perchlorate and brominated flame retardants)	Kurunthachalam KANNAN	中田 晴彦
総合科学 C-11 (Introduction of Micro- and Nano-Sensing Technology)	Cheng-Hsin Chuang	鳥居 修一
総合科学 C-12 (Fluxes in Shallow Water Estuarine Systems)	Charles Lemckert	山田 文彦
総合科学 C-13 (Speciality polymers)	Andrzej W. Trochimczuk	城 昭典
総合科学 C-14 (Food Science and Technology)	Harjinder Singh	外本 和幸

注：自然科学研究科附属総合科学技術共同教育センター国際共同教育部門開講科目であり，一般専門科目は含まない。

出典：自然科学研究科授業科目一覧を基に作成

資料6 - 1 - - F 医学教育部において英語で実施している開講科目一覧 (平成 20 年度)

科目名	担当教員
生命倫理学特論	浅井 篤
医療情報・倫理学理論	宇宿功一郎
エイズ学特別演習 ~	岡田 誠治
発生・再生医学演習 ~	小川峰太郎
環境社会医学理論	加藤 貴彦
発生・再生医学特論	桑 昭苑
トランスレーショナル研究特論，トランスレーショナル研究特別演習，エイズ学特別演習，エイズ学演習 ~，エイズ学実習 ~，エイズ学研究，エイズ学特別研究	滝口 雅文
神経機能科学理論，発生・再生医学特論	田中 英明
神経情報科学理論	玉巻 伸章
細胞機能制御学理論	中西 宏之
発生・再生医学実習	永淵 昭良
発生再生医学理論	西中村隆一
造血免疫制御学理論，移植免疫学特論	西村 泰治
感染病態制御学理論，エイズ学特論	松下 修三
生体分子情報学理論	光山 勝慶

出典：医学教育部授業科目一覧を基に作成

【分析結果とその根拠理由】

関係者からの意見聴取は，多様な方法により実施している。就職先の企業等アンケートによると，一般常識，教養・基礎学力等，あらゆる項目で高水準であるとの回答を得た。低水準及び期待を要する事項は，授業方法・内容の充実を図るなど，優先課題として，更なる改善を図っている。

以上のことから，卒業（修了）者や，就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

理学部，工学部及び薬学部の卒業者は，学士課程から大学院修士課程への進学者が多くなっている。大学院学生の研究成果は，学会等で活発に発表されている。

【改善を要する点】

学外関係者の意見をより多く聴取するために，アンケート（学部卒業生・大学院修了生アンケート，就職先の企業等アンケート等）の回収率を高める必要がある。

教育方法等の改善を図り，新司法試験合格者数の増加に努める必要がある。

(3) 基準 6 の自己評価の概要

中期目標において，基本の方針や目標を定め，各学部・研究科等は，それぞれの特性に応じた教育研究上の目的を明確に定めている。達成状況の検証・評価としては，授業改善のためのアンケート及び卒業（修了）者，就職先企業等への能力評価に関するアンケートを実施し，アンケート結果で顕著になっている問題点等について，授業改善の諸問題への対応等を教育方法改善ハンドブック（KU:T0）に掲載し，全学的に活用している。

単位の取得率，学位取得状況は，いずれも高い水準を維持しており，留年，休学，退学・除籍の数は，いずれも低い水準で推移している。国家試験の合格率は，医師，看護師，臨床検査技師等で高い水準を維持している。さらに，大学院学生の研究成果は，学会等で活発に発表されている。

授業改善のためのアンケートを実施し，授業が全体的に有意義であるということが検証できた。また，要改善授業については，個別に迅速な改善を指導している。

学部卒業生の進路状況は，理学部，工学部及び薬学部の卒業者は，学士課程から大学院修士課程への進学者が多くなっている。また，修士課程・博士前期課程から博士課程・博士後期課程への進学意欲が高い一方，多くの修了者が多様な職種に就職している。

関係者からの意見聴取は，多様な方法により実施し，就職先の企業等アンケートによると，一般常識，教養・基礎学力等，あらゆる項目で高水準であるとの回答を得た。また，低水準及び期待を要する箇所については，優先課題として，更なる改善を図っている。